



スーパーで冷凍食品を買うのは、4割引になってからにする。これは我が家の不文律でした。が、今では冷凍食品を買う機会が激減しました。冷凍ギョウザ事件以降です。

今回の事件は、知らなかったいろんなことを教えてくれました。スーパーの冷凍食品の約4割が中国製だということや、JT(日本たばこ産業)が冷凍食品の大手だということも初めて知りました。中国産の野菜の輸入も4割減っているそうです。中国には食の安全性の保障がありません。

笑い話があります。中国の農村の女性が農薬を飲んで自殺を図った。でもその農薬がインチキで毒性が弱く死ねなかった。

こうした情報に接するに付け、「地産地消」という言葉が重みを増してきます。また日本には昔から「身土不二」という言葉があります。「身体(身)と環境(土)とは不可分(不二)である」という事で、人間も環境の産物で、暑い地域や季節には陰性の作物がとれ、逆に寒い地域や季節には陽性の作物がとれる。暮らす土地において季節の旬の物を常食する事で身体は環境に調和するというものです。俗に住んでいる所の一里四方の物を食べて暮らせば健康でいられると言われます。

われわれは食べ物によって生きています。一番お金を掛けてしかるべきものです。儉約は他の分野でして、まずは健康に気をつけましょう。

<第152回 ほほえみの会>

3人の参加でした。

<第153回 ほほえみの会>

堀越先生をはじめ5人の参加でした。



3歳、男の子、悪性脳腫瘍。放射線治療を終えて退院をした。家ではヨタヨタと歩く状況。白血球が上がらないので、兄にもマスク、手洗い、うがいをさせて風邪をもらわないように注意している。兄も友達を呼びたいというが断っている。家の中で遊ぶのにゲーム機に助けられる。脊髄と小脳にはMAXの放射線を当てているので今後が心配。遠赤外線効果のあるベストや布団は体温を高く保つというがどうだろうか。

7歳小学1年、女の子、血球どん食症候群。血球が食べられてしまう、異物を食べる抗体が間違っ自分の骨髄を食べてしまう。急に悪くなり重症の場合は死に至るケースもあるというがそこまで重症ではない。再生不良性貧血の疑いもある。

幼稚園では休んだこともなかったのに、去年12月に急に足が痛いと言い出し、高熱が続いた。若年性関節リウマチといわれ地元の病院に入院した。その後、学校に行き始めたが2月になってだるいと言い出し検査をした所、血小板の減少が見られた。骨髄検査をしてこども病院へ入院。早期発見ができた。今後、薬の効きを見て治療法を決めていく。院内学級への転校など今後が心配。

3月に女医の安倍医師が赴任されました。今後、4月、5月にも新しい医師が赴任されるそうです。こども病院はICUも日本有数の設備がそろい、チームでの医療が日本で一番進んでいる病院だそうです。栄養科、検査科、薬剤師も定期的に病棟の回診をしており、またICUの医師も参加して、チーム医療が行われているとのことです。

次回 は 4月 13日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail アドレ k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>